

地産地SHOW

埼玉大学 斎藤ゼミ

I. 京田辺市の課題

	自然動態			社会動態		
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減
平成16年	554	372	182	3,447	2,787	660
平成17年	590	368	222	3,820	2,755	1,065
平成18年	583	379	204	2,999	2,734	265

実態: 転入人口の増加



京田辺市の文化や情報を共有しにくい環境にある。

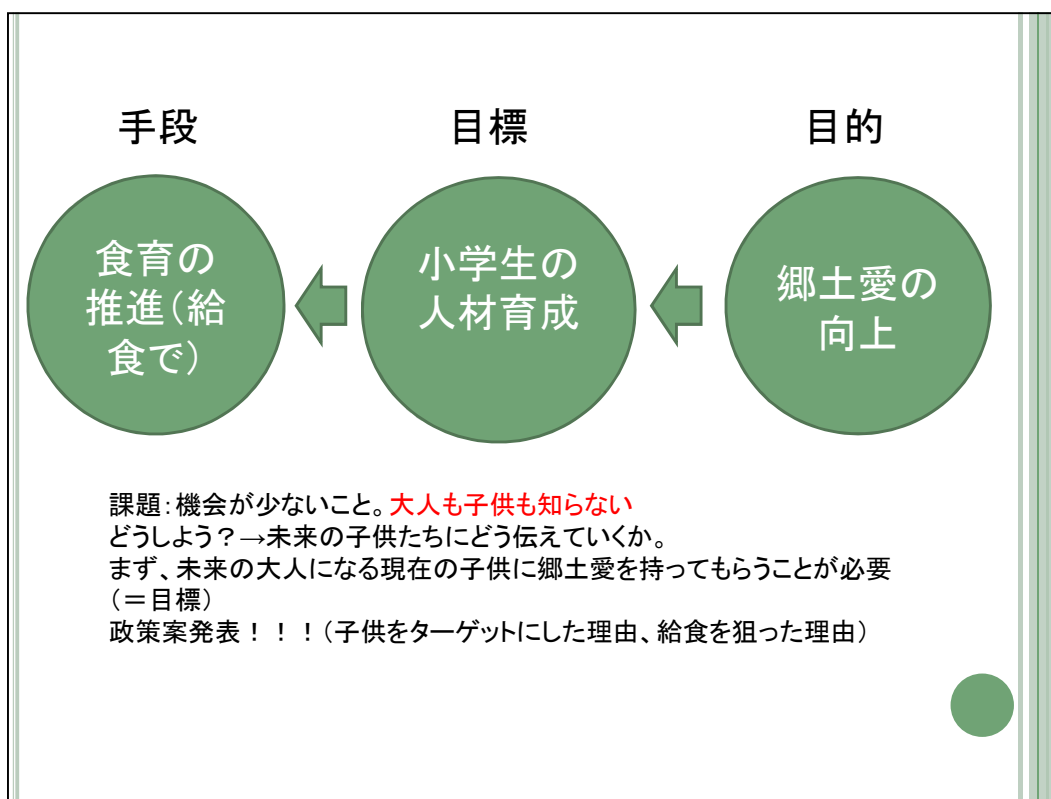
(京田辺について知らない大人が多い。)



子供が地域について学ぶ機会が少なくなる。



課題: 京田辺について大人も子供も知らない人が多くなる。



食育とは

知育……食の知識をはぐくむ。

徳育……食に対する感謝の念と理解を深める。

体育……心身の健康の増進を育てる。

II, 政策手段

1 家庭料理コンクール

～家族との連携による郷土愛～

2 双方向のトレーサビリティ

～献立を通じた子供と農家とのつながり～

3 農業体験 with 農家

～農家から知る生の「食」～

1. 家庭料理コンクール

クラス内で家庭料理の発表会



クラス代表を決め、市のコンクールに出展



審査基準を満たした料理が、
給食のメニューとして出てくる。

事例

「地域に根ざした食育コンクール」(熊本県上天草市)

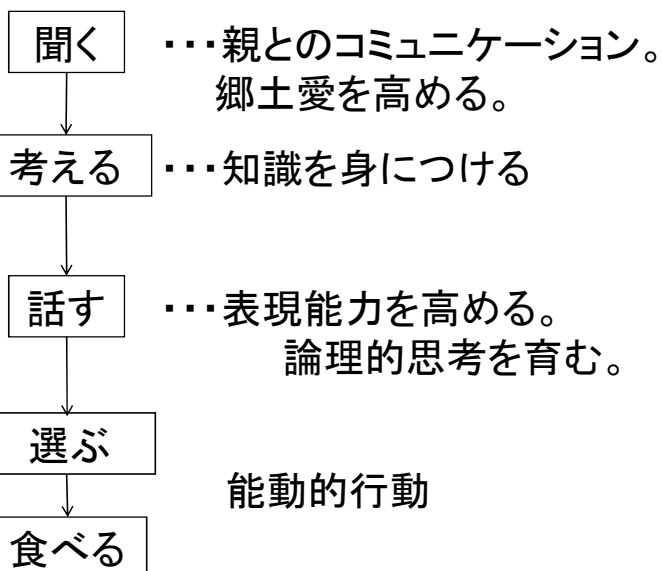
家庭でも食育が実践されることが重要



- ① 月1回保護者が、子どもたちの食べる1食分の給食献立を作る。
- ② 我が家の食生活と学校給食の問題点を振り返る。



保護者が地産地消の推進の意義、旬の食材を取り入れることの大切さを知り、家庭での食事の改善を図る。

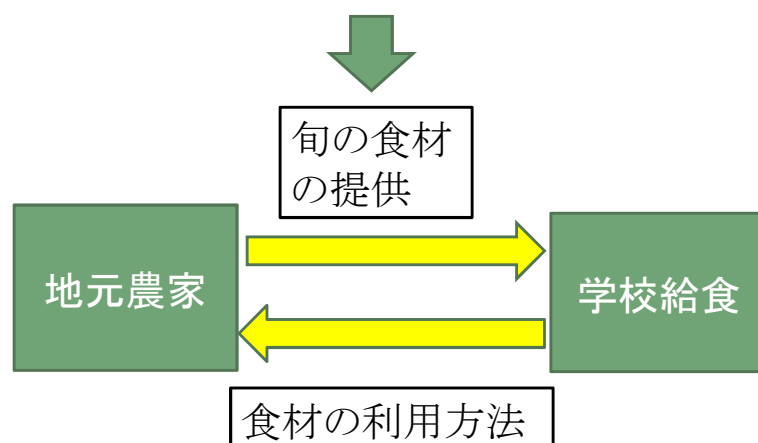


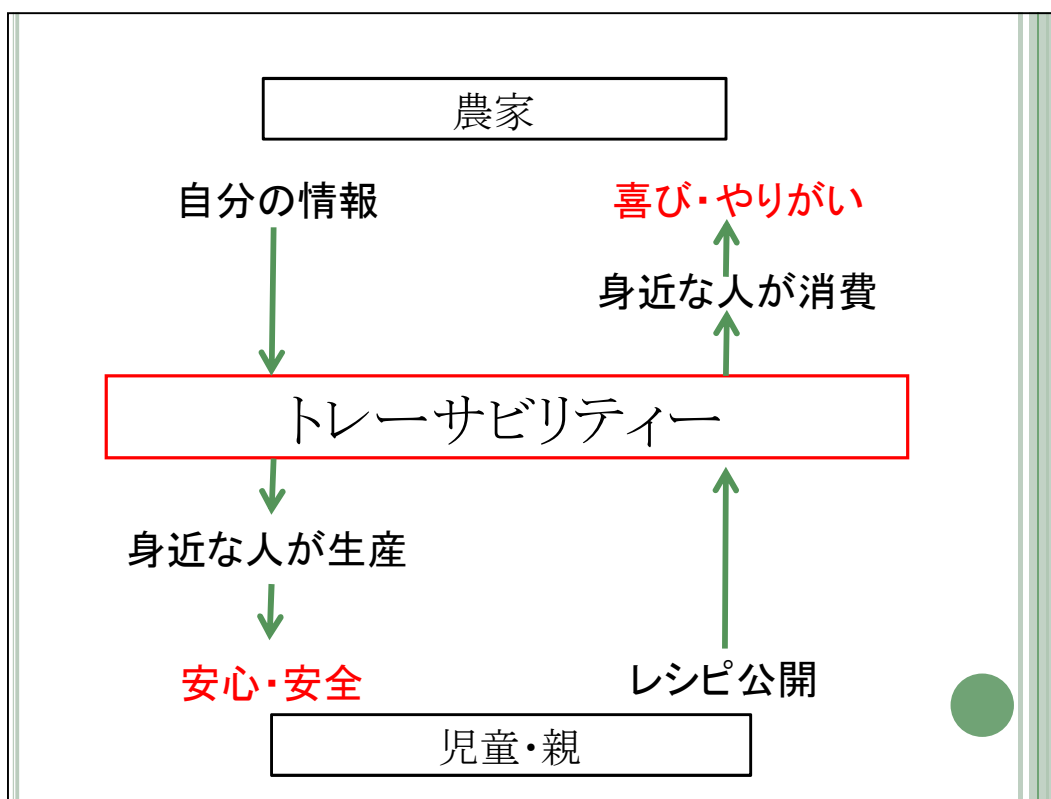
2. 双方向のトレーサビリティー

京田辺市の現状 京田辺市の職員へのインタビューより

- 給食だよりとして情報伝達している学校はあるが、献立の中でトレーサビリティーが行われている例はない。
- 100%京田辺産
 - ・給食で使われるお米
 - ・6、7、9月に使用されるジャガイモ、玉ねぎ
- 京田辺産のタケノコ、なすびを一部給食に用いることがある

双方向にトレーサビリティーを導入！！





3. 農業体験 with農家

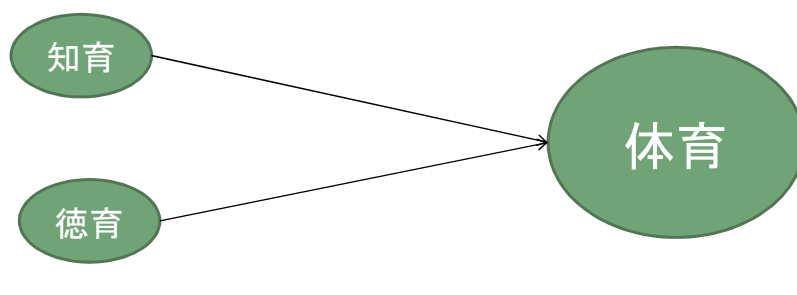
京田辺市の現状

- 各小学校の校庭で農業体験を実施。
- 種まきから収穫まで様々な工程を経験させている。



●農業体験の指導を学校の先生がやるよりも、農家が中心となってやるほうがいい。

●さらに、そこで収穫されたものが給食で食べられるようになると効果的である。



政策効果

手段	効果		
	知育	徳育	体育
1. 家庭料理コンクール	○	◎	
2. 双方向トレーサビリティ		◎	
3. 農業体験	○	○	◎

